

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立 大津野小 学校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価（10月1日）			最終評価（2月末）				
							□指標に係る 取組状況	プロセス 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期（中期）経営 目標の達成状況	プロセス 評価	達成 評価	総合 評価
1	基礎学力の定着と思考力・判断力・表現力の育成	★	見直し	<ul style="list-style-type: none"> 教科・領域をつないだ単元をつくり、「学ぶ」過程を大切に、「わかる」「できる」と実感する授業をつくる。 国語科・算数科における基礎学力の向上を図る。【課】【思】 	内発的動機付けを行い、自分で考え、表現する場を位置付けた授業を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 国語科・算数科の授業は「よくわかる」「学びが面白い」質問項目に対する肯定的評価87%以上にする。【児童アンケート】 	<input type="checkbox"/> 課題のある児童に対して個別指導を行ったり、学力テストの結果を元に単元をつないだ授業づくりを行った。 <input type="checkbox"/> 児童アンケートの質問項目に対する肯定的評価は「よくわかる」93%「学びが面白い」94%。 達成率100%。	4	4	<ul style="list-style-type: none"> 1時間の授業で付ける力を明確にした授業を行う。教科・領域をつないだ単元づくりを行い、授業後見直す。 主体的な学びづくりシートを実践・交流し、改善点を次の授業に生かしていく。 				
					児童の課題を分析し、授業改善の推進やドリルタイムの実施、タブレットを効果的に活用していく。	<ul style="list-style-type: none"> 単元テスト（国語科「思考・判断・表現」、算数科「知識・技能」観点）や各種学力調査において、60%未満の児童を低学年6%、中学年9%、高学年12%未満及び全国平均以上にする。【単元テスト・全国学力・標準学力調査】 	<input type="checkbox"/> 全国学力・学習状況調査の分析や学びづくりシートの作成を行い、授業改善に取り組んだ。 <input type="checkbox"/> 単元テスト（国語科「思考・判断・表現」観点において、60%未満の児童は、低学年4.5%、中学年2.5%、高学年1%。全体での達成率は75%。算数科「知識・技能」観点において、60%未満の児童は、低学年5.9%、中学年4.8%、高学年6.7%全体での達成率は62.5%であった。どちらも指標に対しては100%であった。	4	3	<ul style="list-style-type: none"> 学力アップや問題データベースを用いて多様な文章問題に取り組ませることで、読み取る力を付ける。 学力アップデーに活用問題に取り組ませたり、学力補充を行ったりする。 				
1	主体性・積極性、共感力の育成	★	継続	自ら課題を発見し、課題解決に向けて努力する児童を育てる【課】【主】	月1回OPT（大津野プロジェクトタイム）を実施し、つきたい力を掲示する。代表委員会等を活用し、異学年でつきたい力等を交流する時間を設定する。	学級力レーダーチャートにおける「目標達成力」を87%以上にする。【毎月のレーダーチャート】	<input type="checkbox"/> 職員研修でOPTを交流し、取組の方向性を確認した。また代表委員会でも意識して取り組んだ。 <input type="checkbox"/> 学級力レーダーチャートにおける「目標達成率」100%（全学級達成）。	4	4	<ul style="list-style-type: none"> 交流の視点を毎月変え、他学級の取組などが生かせるようにする。 代表委員会でタブレットを活用し、他学級の良さを視覚的に気付けるようにする。 				
					お互いの立場を尊重し合え、自尊感情の高い児童を育てる【共】	学期に1回、お互いのよさを認め合える場面を設定する。（なりたい自分の振り返り）	学級力レーダーチャートにおける「相手を受け入れる」を80%以上にする。【毎月のレーダーチャート】	<input type="checkbox"/> なりたい自分の振り返りを学期に1回行い、児童同士でコメントを送り合ったことで、自分では気付けない自分の良さに気付くことができるように取組んだ。 <input type="checkbox"/> 学級力レーダーチャートにおける「相手を受け入れる」100%。（全学級達成）	3	4	<ul style="list-style-type: none"> 「相手を受け入れる」心を育むために各学級での取り組みを交流する。 			

1	たくましい体の育成	見直し	めあてをもち、自ら進んで健康・体力向上を図る児童を育てる【課】【主】	課題のある種目について学期ごとの重点項目を設定し、授業改善の推進や「大津野モリモリタイム」等に取組む。	・新体カテストにおける県平均以上の種目率を65%以上にする。【新体カテスト】 ・運動やスポーツをすることは好きを87%以上。【体カテスト】	□職員研修を通して指導力を向上させたり、大津野もりもりタイムを行い主体的に運動する児童を育てるよう取組んだ。 □96種目中46種目が達成し、達成した種目率は47.9%。 「運動やスポーツが好き」90.7%。	2	3	・体育の授業の導入に課題がある種目の強化月間を行い、走力や敏捷性等を高める。 ・カリキュラムマップに各学年の課題に対して力を入れて取り組む単元を明記し、授業の中で継続して取り組む。 ・体育委員会で体力向上の取組を考え、実践することで運動する意欲や運動能力を高める。				
2	教職員の元気・笑顔	継続	業務改善の実施と仕事のスピード化・効率化を意識した職務の遂行【課】【主】	週・月ごとの計画を早めに立て、見直しを持って職務を遂行する。夏季・冬季休業中に会議等のない日を設定する。	時間外勤務時間の平均45時間未満の月100%にする。年次有給休暇5日以上を計画的に取得する。	□時間外勤務時間平均45時間未満の月は、100%であった。 □夏季休業中に一斉閉庁日を設定し、平均4.1日取得できている。	3	3	・業務の効率化を図り、時間外勤務平均45時間未満の月100%を継続していく。 ・冬季休業中の業務を精選し、積極的な有給休暇の取得を促していく。				
		★新規	各教職員が具体的な取組を1つ設定し、その達成に向けて挑戦する。【課】【主】	定期面談を実施し、教職員と対話を通して進捗状況の把握し、達成のための支援をしていく。	仕事のやりがいを感じている教職員を87%以上にする。【100年教育アンケート】	□教職員との対話を通して具体的な取組を1つ設定できている。また、面談等を実施しその進捗状況について指導・助言している。 □100NENアンケートにおいてやりがいを感じている教職員は92.3%であった。	4	4	・業務遂行の過程や達成度が自身の有用感へとつながるよう、教職員1人1人との対話を通してフィードバックしていく。				
3	保護者・地域から信頼される学校の創造	見直し	自ら主体的に考え行動できること、そして、地域に愛着をもち、地域貢献する児童を育てる【共】	当たり前のこと（挨拶・掃除）が当たり前に行える児童の育成 HPなどを活用し情報公開を行う。月1回以上の通信発行で児童の様子を伝える。	保護者満足度を87%以上にする。【保護者アンケート】	□HPや学年通信などで児童の様子を伝えた。また、挨拶や掃除など当たり前に行える児童を育てるために、日ごろから意識統一をして指導を行った。 □保護者アンケート満足度は87.5%（17学級中12学級達成）。	3	3	・保護者アンケート「学校で認められているか。」「学校の様子が分かるか。」の項目が低い。児童の様子を通信やHP、電話連絡、クラスルームに授業の様子を載せ具体的に伝える。				

[プロセス評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

[達成評価の評価基準]

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

[総合評価の評価基準]

評点	評価基準	
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。